



## 高度実践看護の明日

日本私立看護系大学協会 副会長・聖マリア学院大学 学長 矢野 正子

平成21年8月22日の朝日新聞に日野原重明先生の土曜コラム「97歳・私の証 あるがまゝ行く」の欄に“マニフェストに盛り込んでほしい医療改革案”の提言が載っていました。内容は、医師不足を解消するため、来年度から学部定員の増をしても約8年後の話になるとし、提言の一つは、看護大学修士課程の2年間で麻酔医、産科医、小児科医が行う診断、治療、生活指導の基本レベルの知識と技能を看護師に習得させることを今すぐに取り組みすべき要件であると主張しておられます。

さて、今度は看護教育をする側からこの課題にどのように応えるべきか、あるいは看護学修士課程2年間の教育で高度実践看護の教育をすることはどういう意味かを考えねばなりません。高度実践看護と高度実践看護師についての関心が高まることは日野原先生が述べられていることを具体化するしないにかかわらず必要であり、また、我々の教育課題とすることも極めて意味のあることと考えます。日本におけるCNSは米国のそれと同じとは思われませんが、認定方法が整備されていること、NA(麻酔)は日野原先生のお話の中にもあること、またNM(助産師)は別の機会に譲ることとして、ここではNP(ナースプラクティショナー)について言及したいと思います。

我々はNPという看護を十分に知らないし、しかし、NPは看護の役割としてはかなりレベルが高く、また、臨床的かつ専門的なものであると思えます。現に米国では修士課程で教育し、資格試験に合格して全国NP職能団体からの資格認定を受けて働

く州の免許を取り、教育する機関は教育内容や教育機関としての認定・認可が必要であり、全国で14万5000人が働いている、という数字があります。

わが国では、まずNPの必要性・役割・機能やその業務範囲を明確にしていく必要があります。NPは何をやるものか、何がやれるのか、何はやれないのか、日本において必要なのか、必要なのにできないネックがあるとすれば何が原因か、などなど、実践と理論の両方の面から探求が必要です。そのような高度実践看護に関する教育研究が大学院では必須であると考えます。実践的な研究の中から、医師とのコラボレーションのあり方、医師によるスーパービジョンの考え方などを明確にしていく。そして、高度実践看護が医療においても社会においてもまた経済的な面からも成り立つ条件を見出し、創り出していく努力が必要です。

医学と看護学とは異なります。看護学は長い歴史の中で自己を確立してきました。医師が足りないから看護がやるのでしょうか。医師の代わりになるとか、医行為ができないから法改正をしてほしいとか、制度がないから制度化してほしいなどの意見が先に出てきていますが、それらは看護学との中でNPの役割はいかにあるか、国民が求める看護は何かを考えた上で後でついてくると考えます。わが国においては高度実践看護が成立する要件を探究することこそ、現時点では極めて重要であると考えます。

# 日本私立看護系大学協会総会講演会

日時：平成21年7月10日

場所：アルカディア市ヶ谷

## 「私立大学を取り巻く環境」

### 講演 1

#### 「看護系大学経営状況等実態調査結果の説明」

天使大学 事務局長 久保 則雄氏  
北海道医療大学 学務部教務課 日下 稔規氏

### 講演 2

#### 「私立大学の管理・運営、経営状況の現状と今後の課題」

日本福祉大学事業顧問・愛知東邦大学理事 福島一政氏

### 講演 3

#### 「評価時代をむかえた日本の私立大学の諸課題」

日本私立大学協会 事務局長 小出 秀文氏

## 講演 1 「看護系大学経営状況等実態調査結果の説明」

久保則雄氏、日下稔規氏

平成20年に「大学運営・経営に関する事業委員会」が実施した、「大学運営・経営に関する実態調査」の結果について、属性、大学短期大学内の運営機関、法人の理事会等の組織構成・運営、私立学校法改正後の法人・大学短期大学の運営の取り組み、大学短期大学の専任教員組織等、大学短期大学の事務組織等、図書館の状況、学生の納付金の状況、研究費等、財務関係などが説明された。（詳細は、平成21年3月に配布された冊子「大学運営・経営に関する実態調査」を参照。）

加盟校103校中59校、57.3%の大学短大に回答いただきまして、ご協力に感謝申し上げます。看護学科の設置年数は、10年未満の大学・短大が64.4%であり、新設が進んでいることがうかがえます。しかし志願倍率は徐々に低下しており、需要と供給のバランスが懸念されます。看護学科の入学定員は、51～100名が75%で、実習演習が多い、学外実習施設の確保等々から、100名

以下の入学定員を設定しているようです。看護学科の専任教員の年齢構成は、40歳代が35%、30歳代が24%、50歳代が22%で、他の分野に比べ、専任教員の年齢構成が若いといえます。全国的に看護学科が急増状況にあるということに関連していると考えております。

看護学科の初年度納付金の平均は1,699,483円、



4年間の納付金合計額の平均は6,052,697円で、国立の概ね3倍強の額です。これは今後、他の分野の授業料、実験実習費との比較が必要と考えております。

教員個人別の研究費は、教授が479,000円、准教授が418,000円、講師が433,000円、助教が246,000円で、当該校から交付する研究費は抑え、外部資金の獲得を奨励していると考えられます。科学研究費等の競争的研究資金の導入状況は、平均の導入件数が5.2件、導入資金総額が8,403,000円、一件あたりの導入資金額が1,615,000円でした。競争的研究資金については、競争的教育資金とともに、他の分野との比較検討を要すると考えます。

財務関係ですが、看護学科のみを計算してみると、帰属収支差額は平均4,712,000円の赤字、消費収支差額も平均74,637,000円の赤字であり、数字上からいうと経営が成り立たないということです。看護師・保健師・助産師という専門職者の養成には人手がかかり、高コストになります。私立大学は国立大学と違い、どうしても手作り教育を行っていく。これは建学の理念を生かすためにどうしてもそうになっていく、という事が私学の特徴になっています。したがって、当然我々も収支の均衡を図るように努力しなければなりません。国に求める以外方法がないと思います。今回は、速報ということで、分析まではいきませんでしたけれども、今後、大学短期大学別、あるいは規模別等々の教員一人当たりの学生数、職員一人当たりの学生数、教員数と職員数の比較、学生生徒納付金額の比較、帰属収支差額の比較等々の分析を行い、また冊子で皆様にご報告申し上げたいと考えております。

## 講演 2 「私立大学の管理・運営、経営状況の現状と今後の課題」

福島一政氏

本日は、私立大学の管理・運営、経営状況の現状と今後の課題について、昨今の状況を踏まえてお話をさせていただきます。

大学の置かれている現状には、「大衆化(76.8%が専門学校以上の高等教育を受ける)」「少子化」「大学の格差拡大」「経営人材不足」「公的財政支出の不足」という5点が挙げられると思います。

また、大学が社会から求められていることには、「大衆化(低学力の学生でも、高等教育を受けたにふさわしい力量を身につけられるようにする)」「世界的なレベルでの高度な研究」「多様な社会連携による新たな価値の創出(大学同士、あるいは地域、産業界等との連携による、各々の強みを生かす)」「本格的な生涯学習事業の開発」という4点があると考えています。



大学は戦略的プランニングの中で、強みや弱みを把握することで差別化が図られます。さらに財務情報などを戦略的に開示したり、学内で活用し、それに基づいて大学経営ができるような公開書類を作成することも重要であると考えます。

戦略的大学経営とは、長い目で見たミッションやビジョンの明確化を皆

さんと共有するという事です。大学経営の中心は教育であり、決して財務や人事、総務だとか企画という事ではなく、それは経営するための手段です。経営の中心はやっぱり教育です。ここに、もっと力を入れなければだめで、そのためには職員の育成が急務です。

実務的なことだけではなく、教育マネジメントと学習支援、指標を用いた定量的な評価、改善、改革をする必要があるだろうと思います。

プロフェッショナルな職員像とは、コミュニケーション能力が高く、戦略的プランニングの手法を持ち、政策を実現できるマネジメント能力がある人物、という風に思います。

また、新たに価値創造ができ、視野が広くて相対化できることや、複数の業務領域での知見があるということも大事ですが、法人あるいは大学で、できるだけ若いうちから色々な部署をまわってもらう、というようなことも必要なのかな、と思います。

教職員・学生から信頼される人格と大学リテラシーを含む教養が豊かで、大学人らしい品格・教養を身に付けていかなければ、という風にも思っています。

最後は使命感と勇気です。プロフェッショナル職員とは本来総合的なものかな、と思っています。大事にしたいのですが、戦略的な思考、それから、人を目の前のことだけで評価をしないでいただきたい。色々な能力を持っているわけですから、それを引き出したり考慮できるようにしていただければと思います。みんないいところを引き立たせ支えあうような職場作りができれば、と思っています。

### 講演3 「評価時代をむかえた日本の私立大学の諸課題」

小出秀文氏

評価時代を迎えた日本の私立大学という表題で、お話をさせていただきます。

私立大学は、建学の精神に基づく個性豊かな教育研究活動により、学校教育の発展に大きく貢献していますが、同時にまた、たくさんの改革課題を突き付けられ、少子化社会の到来のもとで、定員未充足問題に代表されるように経営環境は一層厳しさを増しています。また、私立大学には、国立大学と比較して大変な行財政格差の問題も存在しています。私学教育を一層発展させていくための行財政基盤や環境整備が重要課題です。

大学改革問題の中心的な審議機関は、中央教育審議会の大学分科会です。その審議には、可能な限り私立大学の現場の声や意見を反映させなければなりません。私ども大学協会では、この意見反映が重要な仕事の一つになっています。昨今は、公的には質保証システムの構築が重要なテーマとなっています。同一世代の大学進学率が55.3%になって、いわゆる、大学の大衆化という時代を迎えて、達成されるべき大学教育の質の維持・向上が最も重要な課題として論議されているのです。昨年12月の中教審答申においてこのことは、「学士課程教育の充実」ということで答申が公表されました。ディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを確立し、全学教職員の共通理解のもとに、教育目標の実現に邁進しようという提案で、FDやSD、初年次教育、GPA制度の導入なども紹介されています。学生に力をつけさせて社会に送り出すのが大学の役割ですから、専門的な学問体系や知識・技能を幅広い体験の中で涵養し総じて全人格的人間形成が行われるという営みは常に点検・確認されていくべきものであって、国から一方的な価値観を押し付けられた質保証ではなりません。

次に、わが国の高等教育機関の数や定員規模をいかに考えるか、その経営はいかにあるべきかという問題も議論されています。現在の大学数・学生数については数が多すぎる、やがて淘汰されるかも知れない私立大学（定員割れの私立大学）に補助金を配分するのは、血税の無駄遣いになるというような乱暴な議論もありました。最近ではトーンダウンしていますが、高等教育の構造的な問題であるとの意識が欠如していて危険な意見と言わねばなりません。それにしても21世紀の日本社会は、知識基盤社会とか成熟社会と言われますが、一層の発展のためには、高等教育機関における人材養成がますます大事です。国民から信頼され、日本の伝統を重んじ、礼節をわきまえた成熟社会の実現に必要な人材を養成する機関は、なんと言っても建学の精神を掲げる私立大学に大きな期待がかかっています。

本学はどのような学生を受入れ、4ヵ年の教育を通して、真に看護マインドを持った看護師、保健師、助産師を養成するのか、その目標を明確に定めて、アクションプランの策定とともに全学一丸となって邁進する。その過程を「PDCA」サイクルを力強く推進することが大学評価の全体像として要請されていると考えています。

多様な私立大学の創意工夫の取組みや、多様な価値追求の取組みによってこそ、この国の新しい活力が生まれてくる、ということだと存じます。





# 理事会報告

## 平成21年度 第1回理事会報告

日 時：平成21年5月23日(土) 13:00～16:00  
 場 所：日本私立看護系大学協会事務局  
 (市ヶ谷 千代田ビル405号室)  
 出席者：16名 委任状1名 (全役員数18名)

### 審議事項

1. 事務局より平成20年度協会収支決算の説明と、5月8日に井部俊子、藤生君江両監事により監査が行われたとの報告があり、藤生君江監事からも、平成20年度日本私立看護系大学協会収支決算を承認したとの報告があった。
2. 各事業活動代表理事より、長期・中期・平成21年度事業活動計画及び平成21年度予算(案)について説明が行われ、承認された。
3. 13校の新設校から新規加盟の申請があり、本理事会で承認された。うち、日本赤十字秋田看護大学は改組転換での加盟である。
4. 平成21年度協会予算案は、収入に関しては12校分の新規校の収入増、支出に関しては平成20年度とほぼ同額の計上となるが、法人化に当たって生じる公認会計士指導料等が新たに含まれている等の説明があり、承認された。
5. 定款修正案に関し、前回理事会以後の主な変更点としては3条、24条、そして条文中「別に定める」とされているところは、「基金規則」「情報公開規程」「日本私立看護系大学協会定款施行細則」の3つの別規則(案)を作成したことが説明され、承認された。

### そ の 他

総会に関し事務局より説明があり、プログラムはほぼ昨年通りであるが、審議事項第5号の法人化に関する件が今年の特筆すべきことであるとの説明があった。

また、総会午後の講演会について、本年度は「大学運営・経営に関する事業」が担当したが、次年度からは各事業持ち回りで行うこととなった。以上が承認された。

## 平成21年度 第2回理事会報告(案)

日 時：平成21年8月1日(土) 13:00～16:00  
 場 所：日本私立看護系大学協会事務局  
 (市ヶ谷 千代田ビル405号室)  
 出席者：14名 委任状4名 (全役員数18名)

### 審議事項

1. 平成21年度事業活動計画と予算について報告された。なお、(5)関係機関との提携等に関する社会的事業は、保助看法の一部改正を受けて、予算内容の見直しとともに、協会としての意見のとりまとめ等、それらを活動に組み込むこととなった。  
 また(6)会報・出版等の広報に関する事業では、ホームページのリニューアルに際し、進行状態によっては11月に補正予算を出すこととなった。
2. 平成21年度研究助成事業選考結果について報告があり、看護学研究奨励賞1名、若手研究者研究助成3名、国際学会発表助成3名が承認された。なお、平成21年度研究助成額合計は160万円となった。

### そ の 他

総会アンケート結果について話し合われた。午前中の総会、午後開催の講演会とも概ね好評であった。

## 平成21年度 総会報告

日 時：平成21年7月10日(金) 11:00～16:45  
 場 所：アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間  
 出席者：168名 (最終出席者数)  
 委任状89名 (全正会員数314名)

### 事務局報告

開会、近藤会長の挨拶に引き続き、平成21年度新加盟校は13校(改組転換の1校を含む)、加盟校数は109校となった(大学90校、短期大学19校：改組転換中等で大学と合わせて1つの議決権を持つ5校を含む)と報告があった。さらに平成20年度第4回の理事

会開催の報告と、平成20年度年報、平成21年度名簿の冊子が作成され、7月下旬を目処に各会員校に送付すると説明があった。

**審議事項**

1. 平成21年度事業活動について、各事業担当理事より報告がなされ、承認された。
2. 平成20年度決算報告が事務局よりなされ、承認された。
3. 平成20年度会計監査報告  
平成21年5月8日に平成20年度収支決算について井部俊子、藤生君江両監事にて監査を行った結果、適正であったことが、藤生君江監事より報告された。
4. 平成21年度・中期・長期事業活動計画について、各担当理事より説明がなされ、承認された。
5. 平成21年度予算案について、事務局より説明が行われ、承認された。
6. 法人化に関する件  
本協会を一般社団法人とする提案を森美智子理事から説明の後、定款案の説明が新旧比較対照表により事務局から行われ、承認された。
7. 新加盟校紹介  
以下の新加盟13校の代表より、大学の紹介および挨拶がなされた。

活水女子大学、関西医療大学、山陽学園大学、西武文理大学、仙台青葉学院短期大学、東京有明医療大学、東都医療大学、豊橋創造大学、日本赤十字秋田看護大学、八戸短期大学、弘前医療福祉大学、広島都市学園大学、北海道文教大学

表1 日本私立看護系大学協会 平成21年度 役員一覧 (任期：平成20年8月から2年間)

役割	所属校	氏名
名誉会長	聖路加看護学園	日野原 重明 堺 隆弘 樋口 康子
会長	天使大学	近藤 潤子
副会長	聖マリア学院大学 東海大学	矢野 正子 溝口 満子
理事	愛知医科大学 藍野大学 岩手看護短期大学 鹿児島純心女子大学 吉備国際大学 九州看護福祉大学 杏林大学 国際医療福祉大学 埼玉医科大学 昭和大学 日本赤十字北海道看護大学 北海道医療大学	土井 まつ子 中桐 佐智子 小川 英行 高平 百合子 尾瀬 裕 二塚 信 飯田 加奈恵 島内 節 岡部 恵子 菅原 スミ 石井 トク 野川 道子
指名理事	日本赤十字秋田看護大学	森 美智子
監事	岐阜医療科学大学 聖路加看護大学	藤生 君江 井部 俊子

(各役職：大学名五十音順)

表2 日本私立看護系大学協会 平成20年度 事業活動担当役員

◎：代表者

事業活動名	担当者(所属機関)
1) 大学における教育に関する事業 ①看護学教育 ②教職員の資質向上に関する事業	◎矢野 正子 (聖マリア学院大学) 高平 百合子 (鹿児島純心女子大学) 中桐 佐智子 (藍野大学)
2) 大学における研究に関する事業 ①学術研究および学術研究体制に関する事業 ②研究助成事業	◎島内 節 (国際医療福祉大学) 野川 道子 (北海道医療大学) 飯田 加奈恵 (杏林大学)
3) 教育、学術および文化の国際交流事業	◎二塚 信 (九州看護福祉大学) 尾瀬 裕 (吉備国際大学)
4) 大学運営・経営に関する事業	◎小川 英行 (岩手看護短期大学) 森 美智子 (日本赤十字秋田看護大学) (オブザーバー) 近藤 潤子 (天使大学)
5) 関係機関との提携等に関する社会的事業	◎石井 トク (日本赤十字北海道看護大学) 岡部 恵子 (埼玉医科大学) 菅原 スミ (昭和大学) 井部 俊子 (聖路加看護大学) 藤生 君江 (岐阜医療科学大学)
6) 会報・出版等の広報に関する事業	◎溝口 満子 (東海大学) 土井 まつ子 (愛知医科大学)



# 平成21年度日本私立看護系大学協会総会 会長あいさつ

## — 「法人化」に関する報告 —

日本私立看護系大学協会 会長 近藤 潤子

本日は、本会総会のために全国からお集まりいただきましてありがとうございます。

本会の各事業も担当理事を始め構成員の皆様のご尽力、会員の皆様のご協力によってそれぞれの成果を得ることができました。本日ここにご報告を申し上げ、次年度の事業、活動についてご審議をお願い申し上げます。

本協会の会員校は現在おおよそ100校となりました。一時期、公立大学の増設が進みましたが一段落し、今後は私立看護系大学の増設が急速に進行するものと推察されます。その理由は、人口の高齢化、プライマリーヘルスケアを含むQuality of Life志向、看護の高度専門分化が進み、質と量の両面から看護教育には強い要請が寄せられ、一方では大学改革の波にのって大学の増設が進むと思われるからです。

私立看護系大学は、各々が独自の建学の理念に則り、優れた看護者の育成に努めていますが、さらに加盟校が連携して私学である特性のもと、高いレベルの職業教育の創造と維持に邁進していきたいと思います。

平成20年度の事業活動は、本協会の主旨にそって担当の委員長、委員の方々のご尽力によりそれぞれの成果があげられました。この年度の特徴として、従来の看護学教育、教員の資質向上、研究、国際交流、関係機関との提携、出版などの事業の継承とならんで、法人化に関する事項、および大学運営・経営に関する事業が進められたことがあげられます。

加盟校100校余の大きな組織となった本協会は、組織の大きさ、活動の重要性、また社会的な存在を明確にするためには、法人化することが望ましいとその検討をすすめてきました。

さらに、高等教育としての看護教育事業の推進にあたり、国公立とは大きく異なる私学における看護教育の運営・財政的側面に目をむけ、調査を実施しました。

これらの資料に基づいて、安定したよい教育を実施するための運営・経営の検討を深めて行きたいと思いません。

中央教育審議会の答申に基づき、大学学士課程で職業教育を行うこと、さらに大学院修士課程で、専門職大学院（専門職学位課程）や大学院に高度専門職業人養成課程を開設することが推進されています。わが国では、戦前、長い間ヨーロッパの影響を受け、大学は研究の府であり、学究の場とし、職業教育を一段低くみなして旧制専門学校にまかせていました。戦後に小・中・高校制度は大きく改革されたにもかかわらず、大学だけは変革されませんでした。昭和43～44年の学園紛争でも抜本的な変化はありませんでした。

大学における職業教育（Professional Education）は、学究型の教育とはカリキュラムから異なると、山田礼子氏は、その著書「プロフェッショナルスクール」で述べておられます。高等教育機関における職業教育としての看護教育の特徴やあり方に注目していくことが必要であろうと思います。

本協会の当面の課題は、各々の私立看護系大学がそれぞれのユニークな建学の精神のもと、豊かな人間形成と、高いレベルの看護職の教育について経験を分かち合い、手を携えて、高等教育機関における優れた看護職の教育を創造して行くことであり、また、望ましい教育の実施を可能にし、維持し続けるために必要な経営のあり方に目を向け、すぐれた教育を行うための条件を整えることであると思います。

平成21年度は、20年度からの課題をさらに深め、成果をあげ、各私立看護系大学のいっそうの発展をはかることができますように皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成21年7月10日

## 平成21年度「関係機関との連携等に関する社会的事業」研修会報告

## 看護教育の本質を問う

## — 国家試験の目指すもの —

日時：平成21年5月24日  
 場所：TKP市ヶ谷ビジネスセンター  
 企画担当校：日本赤十字北海道看護大学  
 埼玉医科大学  
 昭和大学  
 聖路加看護大学  
 岐阜医療科学大学

## &lt;プログラム&gt;

- 13：00～ 日本私立看護系大学協会会長  
挨拶
- 13：10～14：00 「国家試験のあり方」  
天使大学学長 近藤潤子先生
- 14：00～14：10 休憩
- 14：10～15：40 「国家試験の傾向と対策  
— 教育的価値からの検討 —  
九州大学大学院医学研究院教授  
川本利恵子先生
- 15：40～16：00 質疑応答
- 16：00 閉会

の活動報告書にまとめますので、ここでは概略をお知らせしたいと思います。

## I. 国家試験のあり方

天使大学学長 近藤潤子先生

近藤潤子先生は、国家試験は「何のために？」と、まず問われました。それは、免許を付与してよいか否かの判断のためであると明言し、そのために、①必要な基本能力(Core Competencies)を持っているか、②安全にケアが提供できるかの2点をあげられました。先生の講演から、国家試験を通して「看護教育の本質」を改めて問う多くの示唆を与えられました。

## 関係機関との連携等に関する社会的事業委員長

日本赤十字北海道看護大学学長 石井トク

「看護教育の本質を問う—国家試験の目指すもの—」をテーマに2009年5月24日、国家試験に関する研修会を、近藤潤子先生、川本利恵子先生をお迎えし開催いたしました。

今年の保健師、助産師、看護師国家試験の出題方法は、従来と異なっていましたので、試験会場は騒然としたようです。何故、騒然とするのか、何故、学生は戸惑うのか、問う必要があります。また、国家試験はどのような意味があるのか、皆様と共に考えたいと思い、企画致しました。研修内容の詳細、評価等につきましては「関係機関との連携等に関する社会的事業」





## Ⅱ. 国家試験の傾向と対策—教育的評価からの検討—

九州大学大学院医学研究院教授

川本利恵子先生

川本利恵子先生は、①国家試験の形態、②客観試験の方法、基本原則、試験問題を作成するための基本原則、さらにテストの合格水準・合否の分割点について解説されました。「60%以上を合格とすることは合理的か?」、「60%以上を合格とすることに、理論的根拠はあるのか?」、「60%が合否の分割点となるテスト問題を、どのように作成するのか?」の問いから、平成20年(第97回国家試験)と21年(第98回国家試験)の問題を修正イーベル法を用いて分析した結果を報告されました。ちなみに、「修正イーベル法」とは、試験を構成する個々の小問題の難易度を判断し、同時にその問題が学習目標やその後の学習との関連性において、どの程度重要であるか判定し、2次元的に合格水準を設定する方法(合格水準設定)について、詳細に説明され、教育の目標と評価、これからの国家試験出題の傾向についても言及されました。

## Ⅲ. 企画側の評価

研修開催直前の平成21年4月13日、「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の改定について(医政看発第0413001号)が発令されました。改定の「はじめに」の趣旨と具体的内容から、看護職の身分法である保健師看護師助産師法第1条の「この法律は、保健師、助産師、看護師の資質を向上し、もって医療及び公衆衛



生上の普及向上を図ることを目的とする」を再度確認いたしました。社会的使命については、保健師、助産師、看護師それぞれに「業務」として定義されています。さらに、皆様ご承知のように、今年(平成21年)の国家試験から、保健師、助産師は、看護師の国家試験合格が条件となりました。

今年(平成21年)の国家試験は、必須問題の出題の方法が変更されましたが、受験生の動揺はかなり激しいものでした。その反応をどのように教員は解釈するのか、教育の評価として興味があるところです。

近藤先生、川本先生の研修を通して、新たな知見と多くの示唆を得ることが出来ました。皆様ご承知のように、国家試験は、選抜試験ではなく資格試験です。日々の教育の内容と教育の方法が重要であることを再度認識し、大変有意義な研修会でした。





## 新加盟校紹介

### 活水女子大学

#### 看護学部看護学科

学部長 鶴田 早苗

〒856-0835 長崎県大村市久原2-1246-3

Tel : 0957-27-3005 FAX : 0957-27-3007

活水女子大学看護学部は①キリスト教的隣人愛と奉仕の実践、②専門性の高い看護職の養成の趣旨の元、長崎県で、国立、県立、に続く3つ目の看護系大学として、本年4月開設した。

本大学は明治12年創立以来、今日まで伝統ある女子教育の歴史をもち、キリスト教精神を基盤に「高潔な心情」「指導者としての責任遂行能力」「経済的独立の能力」を備えた自立的な女性の養成を建学の精神理念としている。

看護学部1回生76名は、4月3日の入学式を終え、7日より本格的な授業を開始している。前期日程では、週の前半は東山手キャンパスでキリスト教学等教養を、後半は看護学部のある大村キャンパスで専門基礎科目及び専門教育科目の授業を受けている。

実習については、主たる実習施設となる国立病院機構長崎医療センターが本学と同じ敷地にあり、利便性に富んでいる。病院看護部との密な連携により、多くの領域、分野での実習受け入れの準備を進めている。

開学4か月であるが、本学部の教育理念である「高度化・複雑化する保健医療福祉活動に対応でき、広い見識をもってグローバルな視点で活動できる知識・技術を持ち建学の精神に基づく深い人間愛と豊かな人間性を兼ね備えた看護専門職を育成する」を目指し一歩一歩み出しているところである。



### 関西医療大学

#### 保健看護学部保健看護学科

学科長 辻 幸代

〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番1号

Tel : 072-453-8251 FAX : 072-453-0276

本学は、関西国際空港から直線距離にして約12キロ南東に位置する熊取町に、1985年に関西鍼灸短期大学を開学しました。2003年には4年制の関西鍼灸大学として改組転換し、より幅広い医療人を養成する大学として2007年に「関西医療大学」に名称変更しました。現在は、保健医療学部(鍼灸学科、理学療法学科、ヘルスプロモーション整復学科)と、保健看護学部(保健看護学科)の2学部4学科、および大学院保健医療学研究科を有する大学です。本学の設置母体である学校法人関西医療学園の建学の理念は「社会に役立つ道に生き抜く奉仕の精神」です。本学科は、生命の尊厳を基盤にした豊かな人間性を培い、看護の実践と研究に必要な基礎的能力を持ち、看護の専門職として社会に貢献できる人材を育成することを目的に2009年に開設しました。入学定員は80名で、3年次編入8名です。

本学科のカリキュラムの特色は、長年培ってきた東洋医学をベースとした全人的な視点で人間をとらえる教育を実践していることです。代替療法や補完療法で注目されている東洋医学のアプローチやツボ刺激などを学ぶことができます。これらの分野では、看護実践に活用できる研究もすすめていきたいと考えています。また、医療人としての自覚と専門性を養うために、他学科との合同科目を開講し、大学内にある附属診療所での実習を行います。これらを通して、学生時代から交流も深まり医療人としての基礎を育成できると考えています。



## 山陽学園大学 看護学部看護学科

学部長 千田 好子

〒703-8501 岡山市中区平井1-14-1

Tel: 086-272-6254

山陽学園は、1886年に創立された山陽英和女学校に端を発する伝統ある学園です。本学園で51年間校長として献身した上代 淑は、13歳の頃より憧れていたナイチンゲールの自宅を訪問し(1907年)、「人生は人に奉仕してこそ生きがいがあります」との声を聞きました。爾来102年、上代の「愛と奉仕の精神をもった看護婦の育成」という悲願が叶い、岡山市が政令指定都市に移行した記念すべき日(平成21年4月1日)に、本学看護学部が開設されました。

看護学部は、【「愛と奉仕の精神」を培うことによって人格を高め、人類社会に対する連帯の意識を養い、倫理観に富んだ人間愛を育み、保健・医療・福祉を総合的な視野で捉えられる看護専門職者を育成するための教育研究を行い、人々の健康と福祉の向上に寄与する。】ことを教育研究理念としています。

この理念の下に5つの教育目標(豊かな人間性、質の高い看護実践能力、協調性と調整能力、地域貢献、自己研鑽)を掲げ、目標を実現するための教育課程を

編成しました。

看護学部の特色は、①豊かな実習環境(主たる臨地実習施設は岡山市内総合病院、学内実習は最先端の教育機器を備えた看護学部棟・写真)、②教員組織の充実(現在各看護学分野、感染看護学、看護情報学、国際看護学などを専門とする22名の教員〈完成年度35名〉)、③地域に貢献できる看護職者の育成(地域活性化プロジェクトによる地域貢献)です。入学定員は80名で、卒業により取得可能な資格は、看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭一種免許(選択)です。



## 西武文理大学 看護学部

学部長 高橋 照子

〒350-1336 狭山市柏原新田311-1

Tel: 04-2954-7575(代) FAX: 04-2954-7511(代)

本学は、西武蔵野地区にある大学を意味する西武文理大学として創立10周年を迎え、サービス経営学部に加えて、本年看護学部が開設されました。埼玉県狭山市に位置する本学は、英字名称をBunri University of Hospitalityと称するように、ホスピタリティ(おもてなし・思いやり)精神の育成を中核に据え、サービス産業におけるホスピタリティの実現を目指したサービス経営学部と、医療におけるその実現を目指す看護学部の2学部体制となりました。

看護学部は一学年定員を80名とし、人間性豊かな資質の高い看護実践者の育成を目的にしながら、地域貢献を目指しています。附属病院をもたない本学においては、地域医療を支える諸病院を主要実習施設としており、実践側と大学との連携を密にしながら、地域の保健医療福祉の教育・実践・研究活動の拠点的な役割を担いたいと考えています。

ホスピタリティの実現と人間性の涵養を目指す教育においては、教員の資質が最も問われると考え、実践力のある看護を愛する教員陣で構成しているのが、本学部の大きな特徴と言えます。看護分野を、基礎看護学・精神看護学からなる「支援基礎」、母性看護学・小児看護学からなる「生育支援」、成人看護学・老年看護学・在宅看護学からなる「療養支援」、地域看護学からなる「健康支援」として、各分野間の調整を密にしながら、教員総力で教育・研究・実践に取り組んでいます。



## 仙台青葉学院短期大学 看護学科

学科長 根本 良子

〒984-0022 宮城県仙台市若林区五橋3-5-75

Tel : 022-369-8000

2009年4月、杜の都仙台に、本学は開設いたしました。設置学科は「看護学科」と「キャリアデザイン学科」の2学科です。キャンパスは、仙台駅から徒歩10分という通学に大変便利な立地です。

本学看護学科では、看護を、人間の自然治癒力を引き出し、生きる力と希望を持ち、生涯にわたり尊厳を持って輝く人生を送れるように支援することと考え、このような看護を实践する人材を育成するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間愛の精神に基づき、さまざまな文化的・社会的背景をもつ人々を理解・共感し、誠実な心で接することのできる態度を養う。
2. 生命の尊厳を理解し、対象の人権の擁護者としての看護の哲学と倫理観を身につける。
3. 疾病の予防や健康の維持増進、また疾病の回復

## 東京有明医療大学 看護学部

学部長 金井 一薫

〒135-0063 東京都江東区有明2-9-1

Tel : 03-6703-7000 FAX : 03-6703-7100

東京有明医療大学は、東京ウォーターフロントエリアに初めて設立された大学で、レインボーブリッジと富士山が望める位置にあります。水は生命を育む力をもっており、日々の学習環境としては最良の条件を備えています。

本学は、2学部(看護学部・保健医療学部)3学科(看護学科・鍼灸学科・柔道整復学科)を擁し、未来の医療である「統合医療」に貢献できる感性豊かな医療人の育成を目標として設立されました。

看護学科では、ナイチンゲール思想を基盤とした“看護の本質”をしっかりとふまえ、高度な医療技術に対応できる力を養うとともに、地域医療・地域ケアの担い手として、第一級の看護を提供できる人材の育成を目指しています。教育の特色は以下のとおりです。

- ① 50名という少人数制を活かした丁寧な個別学習指導
- ② 1年次の全学融合科目は、学問の基礎的態度を養い、様々なコミュニケーションの技法を学ぶことを通して、人とのつながりの基本を身につけるゼミ形式の授業
- ③ カリキュラム全体は、講義・演習・事例展開・

および終末期における対象ニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる基本的な能力を養う。

4. 社会や地域特性に応じた看護の機能と役割、保健・医療・福祉チームの中で果たす役割をともに理解し、責任を担う姿勢を養う。
5. 自己評価ができ、生涯にわたり学びながら自主的・自立的な行動ができ、専門職業人として成長し続けられるための能力を養う。

これらの教育目標を実現するために、本学科では、教養教育の充実、コミュニケーション能力の育成、看護の実践能力の育成により、地域や臨床で必要とされる看護の好きな看護師を育成していきます。



実習が有機的につながるように構成

- ④ 新設校ならではの、現在の看護学教育の問題点に柔軟に対応したプログラムの構築
  - i : リアリティショックを軽減するための工夫  
例えば、コンピューター制御のシミュレーターを用いてさまざまな症例を体験できる学内演習の提供
  - ii : 電子カルテなど臨床のIT化に対応できるような科目の設置
  - iii : 臨床における考える力、critical thinking能力を伸ばすような授業展開
  - iv : 臨床経験豊かな教員による教育
- ⑤ 病院実習は、全員が東大病院で一元的に実施
- ⑥ 地域在宅ケア実習は、高齢者、障害児・者を対象とする各種の事業所で多彩に展開
- ⑦ 国際性豊かな人材の育成
  - i : 海外における教育・研究活動の実績を有する教員による授業展開
  - ii : 海外からの講師による講演会の開催
- ⑧ わが国における最先端の看護情報発信の基地としての位置づけ

以上の特徴を携えオープンした看護学科ですが、初年度は60名の学生を迎え、順調に歩み始めました。大学に来るのが楽しい…と、目を輝かせている学生たちに接し、看護の面白さを存分に伝えていきたいと、教員一同、講座の垣根のないチームティーチング方式を確立させつつ、相互理解と協働の精神をモットーに進んでいく所存です。



## 東都医療大学

### ヒューマンケア学部看護学科

学科長 教授 鈴木 正子

〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西4-2-11  
Tel:048-574-2500(代) 048-577-8142(直)  
FAX:048-573-3840

本学は、埼玉県北部に位置し、首都圏に4,000床を越える医療施設を展開する医療法人社団大坪会を設立母体とし、渋沢栄一翁の生誕地である深谷市の絶大な支援の下、平成21年4月に開学しました。男子20人を含む106人の学生が入学しています。

本学では「人間愛ある医療人の育成」を教育理念とし、「ヒューマンケアの精神」をすべての科目の中核に位置付けて、高い倫理観に裏付けられた臨床能力のある看護師等育成を目指しています。取得可能な資格は看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格を全員、助産師課程を選択した約10名が助産師国家試験受験資格、また、卒業後申請により養護教諭二種免許等となっています。

本学の教育理念の中核であるヒューマンケアの精神を学ばせる科目構成として、基礎分野には「ヒューマ

ンケア入門」、「生命倫理と医療」、専門基礎分野には「ヒューマンケア各論」、「社会福祉概論」、専門科目には「看護入門演習」「看護コミュニケーション演習」「看護倫理」、「看護倫理演習」「ヒューマンケア総合演習」等を配置しています。少人数ゼミ形式で進める看護系演習科目は、教員から学生たちに臨床の知を伝える良い機会となり、楽しく授業が進められています。学生の生活面においては、チューター(個人指導教員)が一人当たり10数名の学生を担当し、教員との触れ合いを通して勉学活動がスムーズにゆくよう、勉強ばかりでなく日常の生活に至るまで指導して、効果を上げるようにしています。



## 豊橋創造大学

### 保健医療学部看護学科

学科長 森田 せつ子

〒440-8511 豊橋市牛川町松下20-1  
Tel:050-2017-2285

本学は1996年経営情報学部経営情報学科を開学し、現在、保健医療学部(理学療法学科、看護学科)と、大学院(経営情報学研究科)を有する新しい大学です。

本学の母体である学校法人藤ノ花学園の開祖は、1902年豊橋裁縫女学校に始まり、2002年には学園創立100周年、2003年には短期大学部創立20周年を迎えています。藤ノ花学園の校訓「誠をもって勤儉讓を行え」を活かし、時代の変化に対応した新しい教育・研究をするために、自分で考え自分で判断し、新しい価値を創造する人材の育成をめざし、地域社会の発展、文化の向上に貢献することを理念としております。

保健医療学部看護学科のカリキュラムの特色は、1) 初年時教育の充実を目指し、大学では自ら進んで学業を修める者という積極的な姿勢を身につけるために、さまざまな学生と交流する力/協働する力を、すなわちコミットメントする力、を科目「基礎ゼミナール等」において学びます。2) 1年次より、看護をより理解するため、基礎教育科目と同時に看護専門科目を導入

しております。3) 看護はヒューマンケアを基盤にした健康生活支援であります。このような看護の特徴を理解し、看護を目指す一人の社会人としての生活マナーおよび学習の在り方を科目「社会生活とマナー」で学習します。

青年期にある大学生らの4年間は、人間として大いに成長、発達する時期とも言われています。学生を自ら成長する過程にある存在ととらえて、自分の才能を引き出すきっかけを提供する場として、学生個々成長を見守りたいと思います。

入学定員は1学年80名、卒業時取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格(選抜)です。



## 日本赤十字秋田看護大学

### 看護学部看護学科

学長 森 美智子

〒010-1493 秋田市上北手猿田字苗代沢17番地3  
Tel : 018-829-4000

秋田の赤十字看護教育100余年の長い歴史と伝統を受け継いで、東北地方でただ1つの赤十字の看護大学として、2009年に日本赤十字秋田看護大学が開学しました。本学の前身は1896年日本赤十字社秋田支部救護員養成所から始まり、以来、国の内外で活躍する多くの優秀な看護師を輩出し、フローレンス・ナイチンゲール勲章を3名の卒業生が頂いております。1996年この伝統と実績を受け継ぎ、看護学科と介護福祉学科をもって日本赤十字秋田短期大学が発足し、2009年に短大の看護学科を看護学部へ転換致しました。

明治・大正時代から高度な女子教育を目指してきたことに鑑み、現代社会をリードするパイオニア精神を持った優れた人材育成を、PBL(Problem Based Learning)教育を用い達成するように努めています。

建学の理念は、赤十字の「人道」に基づき、看護、介護福祉の分野において、社会のニーズにこたえることのできる、豊かな人間性と専門に関する幅広い能力

を兼ね備えた人材を育成することにあります。

赤十字創立のアンリ・デュナンと近代看護確立のフローレンス・ナイチンゲールの人の尊厳に対する思想を、二方向から学び、尊厳・人権を護る確固たる信念を育成する大学であります。

なお本学には、大正時代のナイチンゲール像と、一卒業生家族の篤志による昭和18年度の光明皇后像があります。時代、依頼主が異なりながら、奇しくも、帝展入選した仏画の高橋万年画家による偶然の「一對の額」となり、家宝として学生の心を育んでおります。



光明皇后像



ナイチンゲール像

## 八戸短期大学

### 看護学科

学科長 蛭田 由美

〒031-0844 青森県八戸市美保野13-384  
Tel : 0178-25-4411 FAX : 0178-25-2220

本学は、青森県南部と岩手県北部における、唯一の専門職養成機関である「幼児教育学科」の1学科で昭和46年4月に開学しました。その後、経営と情報という視点に基づく人材育成を果たすべく、昭和62年4月に経営情報学科を設立して2学科体制となりました。以来、時流とともに変化する多様なニーズに対応していく中で、「幼児保育学科」「ライフデザイン学科」と学科名称を変更し、本年4月には看護の時代といわれる21世紀に対応した人材の育成を目指す3年制の新学科「看護学科」を開設して現在に至っております。

八戸短期大学3学科に共通する教育の理念として「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成すること」を学則第1条に定めており、看護学科では、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の

知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に、看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的としています。これらの具現化にむけて、看護の専門教育に加えて少人数制の「基礎演習」「プレゼンテーション」、さらに2年次からの「研究演習」において、きめ細かな指導を行うとともに、看護師資格取得のための国家試験対策講座を開設し、学生たちの夢を実現させていきます。





## 弘前医療福祉大学

### 保健学部看護学科

学部長 小池 妙子

〒036-8102 青森県弘前市小比内3-18-1

Tel: 0172-27-1001 FAX: 0172-27-1023

本学は、看護学科と医療技術学科(作業療法学専攻・言語聴覚学専攻)の2学科2専攻からなる保健学部を2009年4月に設置し開学いたしました。本学の母体である学校法人城東学園は昭和40年開設以来、地域医療のスペシャリストを輩出してきました。開設以来一貫して「ホスピタリティ精神」を建学の理念にしています。本学の主要概念、人間・生活、健康、地域、環境、連携・活動、統合の6つを定め教育目標と関連させています。

看護学科では豊かな人間性と幅広い人間形成を基盤に看護専門職者に必要な高度の知識と確実な技術を備え、看護現場で資質向上に努め、地域社会に貢献することのできる高い専門性を備えた看護実務者の育成を目指しています。

看護学科の定員は50名、卒業により取得可能な資格は保健師国家試験受験資格・看護師国家試験受験資格です。カリキュラムの特色は1年次早期から地域まで目を向けて学ぶ看護学基礎実習、さらに段階的に医

療施設、福祉施設等の実習へと学年進行に合わせて進みます。4年次後期には、現場の状況に合わせ、複数の患者を受け持ち夜勤体験もできる総合実習を実習の集大成として計画しています。また、地域の特色である農村保健論、寒冷地保健論、他学科と共に学ぶ保健医療福祉連携論、社会の要請に対応した国際社会と看護、災害看護学なども構築されています。

本学所在地は、桜の季節には全国から多くの観光客が訪れる弘前城を擁する歴史と文化の町、弘前市城東地区にあります。6階建ての校舎からは雄大な岩木山の全貌が眺められ夕陽の沈む山の美しさには思わずシャッターを押したくなるような絶景です。



## 広島都市学園大学

### 健康科学部看護学科

学部長 溝上 五十鈴

〒734-0014 広島県広島市南区宇品西5-13-18

Tel: 082-250-1133 FAX: 082-250-1134

広島都市学園大学の母体は、昭和62年4月に発足した学校法人古沢学園です。本学園は、設立時より「心技一体」を建学の精神とし、知識・技術・技能はもちろんのこと、精神的にも豊かで、健全な身体を備えた人材の育成に努めてきました。現在、理学療法学科、作業療法学科等を有する広島医療保健専門学校をはじめ6校の専門学校を運営しております。

また、学園本部は世界で初めての被爆地となった「広島平和公園」のすぐ近くにあり、広島市の負の経験を実践的な知とし、誰もが幸せな人生を創出できるよう人間のあり方を探求したいとの願いをこめ、2009年4月に本学の名称を広島都市学園大学とし、広島市内では初の看護系私立大学として健康科学部看護学科を設置しました。将来は、健康に関わる医療・保健・福祉の全てに関わる教育・研究を目指しており、すでに敷地面積1.85ヘクタールを準備しております。

本学健康科学部看護学科のカリキュラムの特色は、建学の精神において、地元に伝わる武家茶道の「しつらい」や華道を通して、日本の文化、心の在り方、生命の尊さや大地の恵み、心が美しく表現される形もまた美しいという精神を学習します。さらに、体系的に社会に貢献する技術、心と体の調和、国際社会における平和の大切さを学びます。

このたび履修最終日に、全員の学生が第16代お家元を訪れ、武門の茶のあるべき姿を学習しました。普段とは異なる空間で、学生たちはとても癒されるとともに、日本文化の素晴らしさ、庭園などにみる自然の美しさ、茶道の気品ある世界を体験しました。

コミュニケーション技法は、ひとりの人間として豊かな人生を送るために、日本人としての基本的な生活習慣や幅広い人間関係の形成を目的とし、3日間宿泊研修を行います。

今年度は、国立三瓶青少年交流の家で行いました。学生は大自然の中で共同生活をしながら、スポーツやカブラなどの研修を通し、協調性や自己表現力を養い、友達を思いやる心を醸成していきました。

脳の科学では、人類の歴史、社会、文化、科学を脳が創りだした成果と考えられることから、精神の座である脳の仕組みを解明することは、人間の本質を解く



鍵であると考えられます。既習の知識を基に人間の行動や精神活動、高齢社会における認知症やアルツハイマー病、パーキンソン病など脳の科学の理論と臨地実

習での学習を統合させるために4年次に学習し、総合判断力や応用力を養います。

## 北海道文教大学

### 人間科学部看護学科

学科長 岩田 銀子

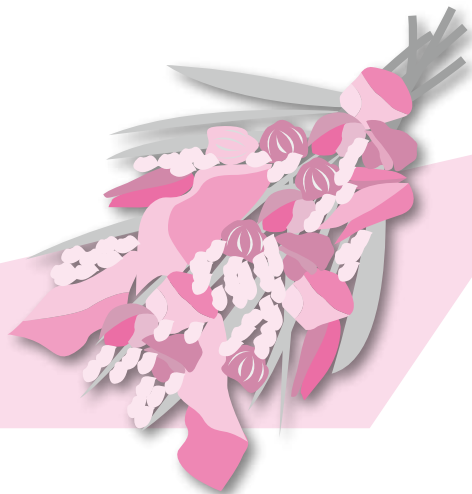
〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1  
Tel : 0123-34-0019 FAX : 0123-34-0057

北海道文教大学は昭和17年6月に設立された北海道女子栄養学校の設立を前身として、平成15年4月に人間科学部の増設が行われ、健康栄養学科を始めとして、平成18年理学療法学科、平成19年作業療法学科、平成20年看護学科が設置され、昨年(平成20年)65周年を迎えた。北海道において看護系大学は公立5校、私立5校、合計10大学があるが、札幌近郊の大学は5校あり、当校もその中の一つであり、学生獲得において激戦区である。看護学科の定員は1学年80名、昨年1期生、本年は2期生を迎えた。

北海道文教大学人間科学部看護学科の教育理念は、医学・医療がめざましい進歩を遂げる現在、幅広く医学・医療・人間について総合的視点をもち、対象者の人権と倫理を尊重し、看護の役割、責任を果たす能力や他専門職者の人々と協力して目標に推進できる能力、さらには科学的に思考し、主体的に行動できる能

力をもった人材の育成である。

本学のカリキュラムの特色は理念に基づき、豊かな人間性の涵養の育成や科学的根拠に基づく実践能力育成、主体的に行動できる能力の育成のため等々の教養科目、専門基礎科目、専門科目の教科目や演習の充実を図っている。また、理学療法学科、作業療法学科、健康栄養学科の他学科や外国語学部の併設を生かしたカリキュラム内外でのコラボレーションにより、チーム医療の意識づけや国際的な視野の広がりを持つという特徴がある。



## 研究助成受賞論文

### ● 平成21年度看護学研究奨励賞 ●

#### Autonomic Nervous Function and Depth of Sedation in Adults Receiving Mechanical Ventilation 人工呼吸を受ける成人における自律神経機能と鎮静深度

聖路加看護大学 卯野木 健

##### 【背景】

集中治療室の患者は様々な心身ともに様々な侵襲を受けており、その緩和法のひとつに鎮静がある。患者の安楽は精神的な側面のみならず、生態防御機構に対し有利に働くことが期待され、現在では人工呼吸患者に対し投与されることが一般的である。集中治療室において、患者、医師、看護師を含むチーム共通の大きな目的のひとつに患者の生理学的な安定があるが、この安定性には自律神経が大きく関与していると思われる。多臓器機能不全症候群などのいくつかの重篤な疾患は自律神経系を変調させることが知られている。これら自律神経機能は安楽の確保を目的に投与される鎮静薬とその管理法、すなわち鎮静深度によって変化する可能性がある。鎮静管理は生理学的、精神的反応などを総合的に評価し、適時、適切に行う必要があり、看護師が深く関与する部分である。鎮静深度に対する自律神経機能の反応を明らかにすることは適切な鎮静深度決定の一助になると考えられる。

##### 【目的】

本研究では、集中治療室の人工呼吸患者において鎮静深度が自律神経機能に与える影響を目的とした。

##### 【方法】

集中治療室に入室している14人の成人人工呼吸患者に対し、心電計を用いてR-R間隔を持続的に測定した。鎮静深度はPatient State Indexを用いて持続的に測定し、深い鎮静(PSA 60未満)、浅い鎮静(PSA 60以上)に分け、それぞれの鎮静深度における5-10分間の心拍変動を記録した。記録したR-R間隔に対し時間領域解析、周波数領域解析を行い、自律神経系の機能を分析、深い鎮静時と浅い鎮静時で自律神経系の機能を示

す指標を比較した。比較には基本的にノンパラメトリック法を用いた。

##### 【結果】

14人中、プロポフォールを使用していたのは2人で、10人がベンゾジアゼピン系鎮静薬(ロラゼパム、ミダゾラム)を使用していた。深い鎮静下において副交感神経系の活動を示す指標(RMSSD、pNN50、HF)は浅い鎮静と比較して有意に低下した。交感神経系の活動を示す指標(LF、L/H ratio)は鎮静深度によって有意な変化はみられなかった。

##### 【考察】

深い鎮静は交感神経系の活動を変化させず副交感神経系のみ抑制した。ベンゾジアゼピン系鎮静薬は副交感神経系を抑制するとの報告があり、これらが容量依存性に作用したものと考えられる。深い鎮静によって抑制された副交感神経系は様々な治療や病態に対する生理学的な適応を妨げる可能性がある。具体的には体位変換や気管吸引などの看護行為に対する正常な生理学的変化、適応を変化させるかもしれない。さらに、不整脈をはじめとする心合併症のリスクを高めるかもしれない。本研究では心拍変動に影響を及ぼす呼吸回数や体位などをコントロールしておらず、さらなる検討が必要である。

##### 【結論】

深い鎮静は副交感神経系のみ抑制する。この機序にはベンゾジアゼピン系鎮静薬が関与している可能性がある。

掲載雑誌：American Journal of Critical Care  
18(1), PP42-50, 2009.

## ● 平成21年度国際学会発表助成 ●

### Social Networks and Perceived Health among the elderly

福岡大学 田中 美加

**Introduction:** Perceived health is an integrated indicator for evaluation of health, which is observed to be associated with morbidity and loss of functional capacity among the elderly. Social network was reported as factor associated with perceived health among the elderly, intervention to which is an effective strategy for health promotion.

We aimed to clarify the following questions: 1) what kind of social group provide the most benefit to perceived health among elderly and 2) what type of family arrangement has positive effect on perceived health?

**Methods:** All subjects in the present study were subpopulation of the Shiranui Study, a cross-sectional study that examined the health impacts of an environmental disaster that occurred about 50 years ago. We mailed a self-rate questionnaire to subjects. 1,548 agreed to participate (response rate 73.7%). After excluding records with missing values on basic variables (sex, age, perceived health and other important independent variables), we selected subjects aged >65 years without experience in application for the compensation. Finally, we used a total of 369 subjects for analysis.

The questionnaire consisted of questions on perceived health, social networks, socio-demographic characteristics and health status.

**Results:** The result of the logistic regression analysis showed that the memberships of hobby- or volunteer-groups were associated with perceived health (OR: 2.14, CI: 1.07-4.31). Subjects living with a spouse only, with a spouse and family members, and with family member other than spouse reported better perceived health than the elderly living alone (OR: 4.36, 6.37, 5.71, respectively, 95% CI: 1.72-11.03, 1.76-22.56, 1.55-21.11, respectively).

**Conclusions:** The cross-sectional study suggested those social networks (memberships in hobby- or volunteer-related groups) and living arrangement (living with a spouse or family members) were associated with good perceived health. The massive changes of social environments surrounding aged people such as living alone and weak social networks have been seen in many developed countries. Stimulation of hobby- and volunteer-related group activities, producing horizontal and mutual interaction and reducing social isolation are important for health promotion of the elderly.

学会名 : The 4th International Conferences on  
Community Health Nursing Research(ICCHNR)

発表場所 : アデレード オーストラリア

発表日 : 2009年8月16-20日.





## Effects of nursing experience on hand hygiene practices

兵庫医療大学 土田 敏恵

**Background:** Hand hygiene (HH) has been considered one of the most important infection control practices for preventing health care-associated infection. However, studies have shown that compliance with HH among health care workers is low ( Jenner et al., 2006; Novoa et al., 2007). To improve HH compliance, various educational programs have been introduced into clinical settings (Whitby et al., 2008 and Gould et al., 2008). Our study sought to clarify if nursing experience is related to compliance with HH in nursing practices in order to develop a more effective educational program.

**Methods:** A study of 13 nurses performing routine nursing duties between 9 a.m. and noon at a university hospital's Coronary Care Unit (CCU) was carried out from July to September 2008. The frequency and skill level of HH activities was directly observed by researchers monitoring the subjects. HH activity data was recorded before and after nursing activities including contact with a patient's environment, contact with a patient, patient examinations, and aseptic techniques. Ratios of actual HH activities versus HH opportunities for each subject were calculated. Subjects were divided into three groups: more than 3 years experience in the CCU ('Veteran'), less than 3 years experience in the CCU but with several years experience in other hospital units ('New-Experience'), and less than 3 years experience in the CCU without any other experience ('New-Graduate').

**Results:** In total, 186 HH activities were directly observed: Veterans=76, New-Experiences=72, New-Graduates=38. HH durations for Veterans were significantly longer than other groups (34 sec for hand washing;  $P=.044$  and 20 sec for hand-rubbing;  $P=.048$ ). A high HH compliance during nursing activities (80%) was observed in all groups for the following self-protective activities: wearing gloves before cleaning patients' rooms, HH after disposal of nursing equipment following patient care, and wearing gloves before meal

cleansing. HH Compliance by Veterans after procedures involving contact with patients ranged from 50% to 73%, whereas compliance by New-Experiences was less than 19% and New-Graduates less than 33%. HH compliance before manipulating infusion lines/pumps, before the preparation of injections, and after touching their own hair/nose was less than 50% in all groups. None of the New-graduates practiced HH before contact with patients.

**Discussion:** The results of our study showed a relation between years of nursing experience, HH duration and compliance with HH. The subjects were divided into three groups by a clinical ladder system in this study. In previous studies, there was no relation among subjects divided by more than/less than ten years (Noritomi et al., 2007), there was a relation among subjects divided by the mean years of the subjects' experience (7 years)(Osuga, 2005). It seems that subjects in this study were influenced by proficient nursing activities and CCU environment. On the other hand, a high HH compliance was observed in all groups for self-protective activities. This pointed out that self-protection became a higher motivation for HH, added to a nursing role of prevention cross infection among patients as usual. Ratio of HH compliance after touching their own hair and nose was low in all groups. Because it is a natural human habit, so they were lacking in self awareness.

We will continue evaluating the factors of nursing experience related to HH practice and develop an educational program which takes advantage of applicable nursing experience to help improve nurses' HH practices.

学会名：20<sup>th</sup> International Networking for Education  
in Healthcare Conference

発表場所：イギリス

発表日：2009年9月8日

## An outbreak of VanB-type *Enterococcus faecium* colonization that showed heterogeneous resistance to Vancomycin in a University Hospital in Japan

順天堂大学 池田 恵

**Background/Objectives:** Over the last two decades, vancomycin-resistant enterococci (VRE) have emerged as important nosocomial pathogens. To identify VRE that show rather low Minimum Inhibitory Concentration (MIC) values is a concern for the prevention of hospital infection. Since 1997, our microbiology laboratory has added optional criteria to judge the MIC values of glycopeptides against some gram-positive cocci after 48 hours to identify heterogeneously-resistant strains. In 2005, an outbreak of VanB type VRE with an atypical character of vancomycin susceptibility has occurred in a university hospital. We investigated a method for the identification of hetero-VRE.

**Methods:** The initial VanB type VRE isolate was cultured from urine of a patient in May 2005. To examine the dissemination of vanB-carrying enterococci, faeces and urine of 92 inpatients were investigated to identify the carriage of VRE. An automatic susceptibility testing system was used to determine the MICs. Furthermore, the MICs of different antimicrobial agents were evaluated by the agar dilution method and we continued the incubation and judged their MIC values after 48 h. Subsequent PCR investigations revealed that the strain carried the vanB gene. Population analysis was used to

examine heterogeneous resistance to vancomycin.

**Result:** In total 10 VRE strains were isolated from 5 patients. All isolates showed intermediate resistance to vancomycin. Population analysis of these strains clearly showed heterogeneous resistance to vancomycin. Furthermore, colonies grown on BHI agar plates containing 32 mg/L of vancomycin changed to become highly resistant ones.

**Conclusions:** A reliable screening method for VRE with reduced susceptibility to vancomycin is warranted as part of the routine susceptibility testing of clinical isolates at hospitals where hetero-VRE strains are prevalent. Our data indicate that hetero-VRE strains might be overlooked with routine automated systems. It should be emphasized that there is still the need for improvement in this method for the accurate detection of VRE strains with the vanB genotype. Consequently, our method, to judge MIC values after additional 24 h-prolonged incubation, might be useful to identify these strains and could be another alternative.

学会名：米国感染管理疫学専門家協会国際会議  
(APIC 2009)

発表場所：アメリカ フロリダ州  
フォートローダーデール

発表日：2009年6月9日

## ● 平成21年度若手研究者研究助成 ●

ミャンマーにおける女性の健康とドメスティック・バイオレンスの調査

聖路加看護大学 小黒 道子

冷え性のヘルスプロモーションの有用性—分娩時のアウトカム評価と分析—

武蔵野大学 中村 幸代

自閉症障害のある児ときょうだいの生活構築

兵庫大学 川上 あずさ

## 事務局からのお知らせ

### 平成21年度 研究助成 選考結果発表

協会ホームページ・研究助成事業選考結果一覧  
(<http://www.spcnj.jp/support/ichiran.html>) をご覧ください。

### セミナーのご案内

#### 教育セミナー

「大学における教育に関する事業」教育セミナー  
プログラム(案)

- テーマ：学士課程の看護研究授業における「論文のクリティーク」  
—論文タイプ別にクリティークを試みる—
- 期 日：2010年1月9日(土) 10:00～16:30
- 会 場：日本青年館  
東京都新宿区霞ヶ丘町7-1  
TEL 03-3401-0101
- 参加募集人員：100名
- プログラム：参加者はセミナーに備えて事前配布資

料について学習をしておく。

- 第一部 論文クリティークの報告 10:00～12:00  
聖路加看護大学教授 萱間 真美 先生  
大阪大学教授 阿曾 洋子 先生
- 第二部 ワークショップ 13:00～15:00  
10～15名のグループによる事前配布論文  
クリティークの試み
- 第三部 ワークショップの報告 15:20～16:20  
クリティークの結果とその要点を解説発表

■応募方法：各大学・短期大学窓口担当者宛送付の応募用紙(10月に送付予定)か、あるいは当協会ホームページの応募用紙をダウンロードの上、FAXでご応募ください。

■問い合わせ先：聖マリア学院大学 矢野 正子  
0942-35-7271

詳細は、協会ホームページ「事務局からのお知らせ」をご覧ください。  
たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

## 編集後記

今年看護界にとって大きな変革の年といっても過言ではない。平成19年度に取りまとめられた「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」を受け、保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正、看護基礎教育カリキュラムが21年度から適応となった。昨年3月にまとめられた「保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告書」では、保健師国家試験の必修問題強化のため出題範囲の拡大が提言された。これを受け医道審議会保健師助産師看護師分科会のもと、保助看国家試験出題基準改定部会が設置され、出題基準の改定が行われた。出題基準は、保健師・助産師・看護師の国家試験の適切な範囲と水準確保のためにこれに準拠し出題するものとされ、教育の在り方を拘束するものではないとしているが、教育内容やあり方に及ぼす影響は大きい。

平成21年7月9日第171回通常国会衆議院本会議で、保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保に関する法律の一部を改正する法律案が可決成立した。

この法案提案は、少子高齢化の進展に伴う医療の需要の増大などに対応した良質な看護を国民に提供することの必要性に鑑み、保健師・助産師国家試験及び看護師国家試験の受験資格を改めるとともに、新たに看護に従事する保健師・助産師・看護師及び准看護師の臨床研修及びその他の研修について定める必要がある。というのが法案提案の理由である。(日本看護協会ニュース2008年8月号引用)改正法は、平成22年4月1日から施行である。

本法案改正の詳細は、各都道府県知事、各都道府県教育委員

会教育長、各国公立大学長宛て通知(平成21年7月23日医政発第723第25号)を参照願いたい。

国内の18歳人口は1992年の約205万人をピークに減少し続け、2009年には約121万人に。短大・大学の設置をコントロールしてきた国は、1990年代以降に規制緩和し、2003年度には認可制から届け出制に改めた。このような構造改革の流れの中で大学の淘汰が始まり、4年制私立大学で入学定員に達しなかった大学は、2008年度は47.1%(266校)とほぼ2校に1校に拡大し、50%に満たない大学は2ケタに上っている。(日本私立学校振興・共済事業団調査)

このような中で合併や学部転換が多く、中でも学生が集まる学部への転換が増え、入学定員充足率が約110%(2008年度)と安定的な看護学部・学科への転換が目立つ。毎日新聞によると平成22年度の学部設置を文部科学省に申請している大学16校中7校が看護系の学部を計画しているという。

看護系大学が増加する一方、文部科学省から「大学における看護系人材の育成の在り方に関する検討会第一次報告書」などが出され、看護職に求められる判断力・実践力・倫理性を持つ看護師を教育する大学として、教師の教育力の向上を図ることが今後の重要な課題であると痛感している。

会報22号発刊にあたり、原稿を快くお引き受けくださいました皆様に心から感謝申し上げます。現在、編集委員会ではホームページの刷新のための検討をしております。皆様方のご意見をお寄せいただければ幸いです。

(東海大学医療技術短期大学 熊谷智子)

### 日本私立看護系大学協会会報 第22号

発行者：日本私立看護系大学協会 <http://www.spcnj.jp/>  
〒162-0845 新宿区市谷本村町3-19 千代田ビル405号室  
TEL 03-5879-6580/FAX 03-5879-6581 E-mail jpnacs@jade.dti.ne.jp  
編集責任者：溝口満子 土井まつ子

### 編集：

東海大学健康科学部  
石井美里 白石知子 森祥子  
東海大学医療技術短期大学 熊谷智子  
愛知医科大学 伊藤真由美 大谷恵  
印刷所：港北出版印刷株式会社